

Sun ONE Directory Server 5.2 リリースノート

バージョン 5.2

Part No. 816-6880-10

2003 年 12 月

このリリースノートには、Sun Open Net Environment (Sun ONE) Directory Server 5.2 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能および拡張機能、既知の制限および問題、技術情報などを記載します。Directory Server 5.2 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新版は、Sun ONE マニュアルの Web サイト <http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja> で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前にこの Web サイトを参照してください。また、その後も定期的に Web サイトを参照して、最新のリリースノートやマニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [変更履歴](#)
- [Directory Server 5.2 について](#)
- [Directory Server 5.2 の新機能](#)
- [サポートされているプラットフォーム](#)
- [インストール上の注意](#)
- [Directory Server のマニュアルの記述の誤りの訂正および追加事項](#)
- [互換性の問題](#)
- [既知の問題](#)
- [製品ドキュメントの入手方法](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更点
2003年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> Java™ Enterprise System にパッケージ化されている Directory Server 5.2 製品でいくつかのバグを修正。詳細は、「インストール上の注意」を参照してください。 旧バージョンのレプリケーションで参照整合性プラグインを使用する際のドキュメントが必要 (#4956596)
2003年10月28日	<ul style="list-style-type: none"> 『Directory Server Resource Kit Tools Reference』の記述の誤りを訂正
2003年9月16日	<ul style="list-style-type: none"> 『管理ガイド』の記述の誤りを訂正 - ある LDAP 制御での連鎖に関する記述の誤りの訂正 『インストールおよびチューニングガイド』の HA に関する記述の追加 サポートされているプラットフォームの更新
2003年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> http://docs.sun.com で『管理ガイド』の HTML バージョンに加えられた変更を追記 インストール上の注意の追記 (管理サーバーパスワードの使用に関する注意)
2003年7月11日	<ul style="list-style-type: none"> 変更履歴ログがデフォルトでページされない (#4881004) インストールするときに、複数バイト文字が原因で問題が発生する (#4882927) (日本語版だけでなく、すべての言語に適用するよう修正)
2003年6月26日	#4882801 の更新 (プラットフォームを指定)
2003年6月23日	<p>以下の記述を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き込み機能およびマルチマスターレプリケーションに関する注意事項 マルチマスターをレプリケーションするときのレプリカの初期化に関する注意事項 日本語版インストール時の複数バイト文字の問題 (#4882927) 繁体字中国語版のサフィックスで発生する複数バイト文字の問題 (#4882801) ローカライズされたマニュアルの入手方法に関する注意事項 『管理ガイド』の記述の誤りの追記
2003年6月10日	HP-UX システムにおける日本語ロケールの問題の追記
2003年6月6日	このリリースノートの第1版

Directory Server 5.2 について

Sun ONE Directory Server 5.2 は、強力で拡張性の高い分散型ディレクトリサーバーで、業界標準の Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を使用しています。Sun ONE Directory Server ソフトウェアは、Sun ONE シリーズの製品の 1 つです。Sun ONE は、オンデマンド・サービスの開発と展開を実現する Sun の標準ベースのソフトウェアビジョン、アーキテクチャ、プラットフォーム、専門技術で構成される枠組みです。

Directory Server 5.2 の新機能

Sun ONE Directory Server 5.2 には、以下の新機能および拡張機能が追加されています。

- 更新および改善されたサーバー管理コンソール

Directory Server コンソールでは、レプリケーションの設定に使用するインタフェースが簡素化され、IPv6 がサポートされるようになりました。新しいコンソールについての詳細は、『Sun ONE Directory Server 管理ガイド』の第 1 章「Directory Server コンソールの使用」を参照してください。

- 拡張されたレプリケーション機能

レプリケーション機能に以下の機能が追加されています。

- マルチマスターレプリケーションを 4 つの方法で行うことができる

マルチマスターレプリケーションは、高い可用性を実現するために設計されています。配備方法によっては、マスターレプリカを追加すると、レプリケーショントポロジを行う書き込みの総数が大幅に増加することがあります。通常、このような配備で使用されるアプリケーションでは、ディレクトリデータをローカル環境で再利用しながら書き込む必要があります。この場合、データ更新を全体で統一させる速度がトポロジ全体で低下することがあります。

一般に、複数のサーバー間でデータの整合性を保持するには、大きな負荷が必要となります。レプリケーショントポロジ全体で高度なデータの整合性と統一性を実現するには、サーバーを追加するだけで書き込み全体のスループットを向上させることはできません。

- マルチマスターレプリケーションを WAN を介して行うことができる
- サーバーの昇格および降格をオンラインで行うことができる
- 部分レプリケーション (属性のサブセットをレプリケートする機能)
- 次のレプリケーション監視ツールの追加

`insync` - マスターレプリカと 1 つ以上のコンシューマレプリカ間の同期状態を示す

entrycmp - 異なる 2 つのサーバー上に存在する同一エントリの属性および値を比較する

repldisc - レプリケーショントポロジを検出できる。認識されているすべてのサーバーのグラフを作成し、トポロジを示す一覧表を表示する

これらのツールは、Directory Server 5.1 Service Pack 1 および 2 とも互換性があります。

○ レプリケーションフェイルオーバー機能の改善

○ 同時レプリケーション更新機能の改善

複数のサプライヤからの変更を、1 つのコンシューマ上で同時に受け入れ可能

1 つのレプリケーションセッション内で、複数の更新を同時に実行可能

注 マルチマスター設定内で別のマスターから初期化されるマスターの場合は、レプリケーションを更新して読み取り操作は行うことができますが、クライアントからのすべての書き込み操作にはリフェラルを返します。特定のマスターを読み取り / 書き込みモードに戻すには、`ds5BeginReplicaAcceptUpdates` 設定の属性を `start` に設定して更新操作を明示的に許可します。更新の受け付けを有効にする前に、新しいマスターレプリカの内容が他のマスターと一致していることを確認する必要があります。更新を許可するときには、Directory Server コンソールのレプリケーション設定パネルまたはコマンド行を使用して行います。詳細は、『Sun ONE Directory Server 管理ガイド』の「レプリカの初期化」を参照してください。

- DSMLv2/SOAP を介したディレクトリアクセス
- IPv6 のサポート
- 大規模キャッシュのサポート (64 ビット)
- LDAP クライアントが実行権限を取得可能
- 4.x および 5.x から 5.2 に簡単に移行可能
- 複数のパスワードポリシー
- パスワード以外の属性を暗号化可能
- 対話的な GUI インストーラ
- Windows 上で startTLS を使用可能
- エラーログ機能の改善
- 柔軟性の高いロールの適用範囲
- 検索フィルタで仮想属性を使用可能
- Sun Crypto Accelerator 1000 Board のサポート

- パフォーマンスの改善
- 高度なバイナリコピー機能

マスターまたはコンシューマのレプリカのクローンを作成できます。つまり、あるサーバー上のバイナリバックアップファイルを使用して、別のサーバー上に同じ内容のディレクトリを復元することができます。

- 製品ドキュメントの向上

5.2 のドキュメントセットに、次のドキュメントが新たに追加されました。

- 『インストールおよびチューニングガイド』
- 『Getting Started Guide』
- 『Plug-In API Programming Guide』
- 『Plug-In API Reference』

既存のドキュメントでは、次の点に関する重要な変更があります。

- 『Reference Manual』のエラーコードの記述
- 『配備ガイド』、『管理ガイド』、および『Reference Manual』のレプリケーション関連の記述
- 『配備ガイド』、『管理ガイド』の新しいパスワードポリシーおよび属性暗号化に関する情報
- 従来と異なり、製品ドキュメントは製品と共にインストールされません。製品 CD および Web 上から利用できます。

Directory Server 5.2 のアーキテクチャが変更されたために、Directory Server 4.x の一部の機能が利用できなくなりました。利用できなくなった機能を次に示します。

- Windows とのパスワードの同期。この機能は、Windows 製品向けの Sun ONE Identity Synchronization に置き換えられました。この製品のバージョン 1.0 は、Sun ONE Directory Server 5.2 のリリース直後に入手可能になる予定です。
- データベースバックエンドプラグインインタフェース。データベースバックエンドプラグインインタフェースの代わりに、拡張された前処理インタフェースを使用して、代替ディレクトリデータストアにアクセスできるプラグインを実装します。
- また、分散プラグインのアーキテクチャと機能が、Directory Server の今後のリリースで大きく変更される予定です。

サポートされているプラットフォーム

Directory Server 5.2 は、次のプラットフォームで使用できます。

- Sun Solaris 8 UltraSPARC 版 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Sun Solaris 9 SPARC 版 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Sun Solaris 9 Intel 版 (IA-32)
- Microsoft Windows 2000 Server および Microsoft Windows 2000 Advanced Server SP 3 (IA-32)
- RedHat Linux 7.2 (IA-32)
- Sun Linux 5.0 (Sun LX50)
- Hewlett-Packard HP-UX 11.i PA-RISC 1.1 または 2.0 (32 ビットおよび 64 ビット)
- IBM AIX 5.1 (Power PC) (32 ビット)

注 Sun ONE Directory Server 5.2 が Sun Cluster 3.1 で検証されました。Windows 2000 Service Pack 4 でも検証されています。

Compaq Tru64 オペレーティングシステム上で Directory Server を使用できるかどうかについては、Compaq 代理店にお問い合わせください。

一部のオペレーティングシステムでは、Directory Server 5.2 をインストールする前に、パッチまたはサービスパックのインストールが必要な場合があります。詳細は、『Sun ONE Directory Server インストールおよびチューニングガイド』を参照してください。Solaris のパッチは、<http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

インストール上の注意

- Sun Java™ Enterprise System にパッケージ化されている Directory Server 5.2 製品では、次の拡張機能およびバグの修正が提供されます。
 - ディレクトリサーバーのバグ
 - VLV インデックスが SPARC 64 で正しく動作しない (#4877307)
 - データのインポート後に、エントリのない VLV インデックスをマージすると正しく動作しない (#4877894)
 - ieee802Device および bootableDevice オブジェクトクラスは、下位互換性を持たない (#4884562)
 - 変更履歴ログの削除が有効の場合、サーバーに障害が発生する (#4891228)
 - 正しくない逆 DNS リクエストがサーバーの起動時に発行される (#4909592)
 - Java Enterprise System とそのコンポーネントが使用する J2SE の場所が、Directory Server が使用する J2SE の場所と同じではない (#4924002)
 - 管理サーバーのバグ
 - RDN 内のバックスラッシュがコンソールでサポートされない (#4737629)
 - 日本語ロケールでは、「コンソールのプリファレンス」ウィンドウの「フォント」タブが正しく動作しない (#4838530)
 - 日本語ロケールでは、「証明書の管理」ウィンドウから「CA 証明書」および「失効した証明書」タブが使用できない (#4865986)
 - 日本語ロケールでは、「新規管理ドメインの作成」のウィンドウのデフォルトサイズが小さ過ぎる (#4866621)
 - 一部のオンラインヘルプのウィンドウが正しく動作しない場合がある (#4866623)
 - コンソールを使用して新規メンバーを含む新規グループを作成すると、LDAP 例外エラーが発生する (#4868083)
 - アジア言語のすべてのロケール (ja、ko、zh、zh-TW) では、コンソールのログインウィンドウのオンラインヘルプが正しく動作しない (#4868579)
 - 台湾中国語ロケールでは、「ブラウザで開く」ボタンを押すとオンラインヘルプの目次が表示されない (#4881871)
 - コンソールのログインウィンドウでオンラインヘルプのボタンが正しく動作しない (#4890502)

Sun Java Enterprise System についての詳細は、<http://www.sun.com/software/learnabout/enterprisesystem/index.html> を参照してください。

- 管理サーバーを **root** として実行する場合、管理ユーザーが開始するコマンドもすべて **root** として実行されます。そのため、サーバーの **root** パスワードに対する機密性とセキュリティに適用するのと同じ規則を、管理者パスワードについても適用する必要があります。
- **idsktune** ユーティリティは、**Directory Server 5.2** のリリース時点で最新のものを提供しています。この日付以降に新しいパッチが提供された場合は、実行結果が正しく出力されないことがあります。
- **Solaris** システムでは、**SUNWnisu** パッケージを適用しないと、正しくインストールされません。**SUNWnisu** を適用しても、**NIS** を使用する必要はありません。
- 空白文字を含むインストールパスはサポートされません。インストールパスに空白文字は使用しないでください。
- **Directory Server 5.2** を **Solaris** パッケージからインストールする場合は、シンボリックリンクを **ServerRoot** として指定しないようにしてください。**ServerRoot** は、**Directory Server**、**Sun ONE** 管理サーバー、およびコマンド行ツールの共有バイナリファイルにアクセスするときを使用するパスです。**ServerRoot** にシンボリックリンクを指定した状態で、管理サーバーを **root** 以外のユーザーで起動すると、次のエラーが出力されます。

You must be root to run this command

- **Directory Server 5.2** では、スキーマファイル **11rfc2307.ldif** が **RFC 2307** に合わせて変更されています。**5.1** の **zip** をインストールする場合は、**10rfc2307.ldif** を使用し、**5.1** の **Solaris** パッケージをインストールする場合は、**11rfc23.ldif** を使用してください。**5.1** バージョンのスキーマは推奨されていません。**5.1** バージョンのスキーマを使用してアプリケーションをインストールすると、この変更の影響を受けます。変更の概要を次に示します。
 - **automount** および **automountInformation** 属性の削除
 - **ipHost** オブジェクトクラスで使用できる属性リストからの、**o \$ ou \$ owner \$ seeAlso \$ serialNumber** の削除
 - **ieee802Device** オブジェクトクラスの必須属性リストからの、**cn** の削除
 - **ieee802Device** オブジェクトクラスで使用できる属性リストからの、**description \$ l \$ o \$ ou \$ owner \$ seeAlso \$ serialNumber** の削除
 - **bootableDevice** オブジェクトクラスの必須属性リストからの、**cn** の削除
 - **bootableDevice** オブジェクトクラスで使用できる属性リストからの、**description \$ l \$ o \$ ou \$ owner \$ seeAlso \$ serialNumber** の削除
 - **nisMap** オブジェクトクラスの **OID** が、**1.3.6.1.1.1.2.9** に変更

Directory Server を **5.1** から **5.2** に移行するときに、スキーマとデータベース間で不整合が発生しないように、古いバージョンのスキーマファイルが移行されます。このスキーマファイルをカスタマイズしていない場合、さらにデータベースに含まれるスキーマをデータベースが参照していない場合は、移行を実行する前にこのファイルを **5.1** のスキーマから削除することができます。古いスキーマファイルを削除すると、**RFC 2307** に準拠したスキーマファイルが作成されます。

このスキーマファイルをカスタマイズしている場合、またはデータベースに含まれるスキーマをデータベースが参照している場合は、次の手順を実行してください。

- zip をインストールする場合は、5.1 スキーマディレクトリから 10rfc2307.ldif ファイルを削除してから、5.2 の 11rfc2307.ldif ファイルを 5.1 のスキーマディレクトリにコピーします (5.1 Directory Server の Solaris パッケージにはこの変更が反映されています)。
- 次のファイルを 5.2 のスキーマディレクトリから 5.1 のスキーマディレクトリにコピーして、5.1 のファイルを上書きします。
11rfc2307.ldif、50ns-msg.ldif、30ns-common.ldif、50ns-directory.ldif、
50ns-mail.ldif、50ns-mlm.ldif、50ns-admin.ldif、50ns-certificate.ldif、
50ns-netshare.ldif、50ns-legacy.ldif、および 20subscriber.ldif

注：この変更は、レプリケーションにも影響します。詳細は、「[レプリケーション](#)」を参照してください。

- Solaris プラットフォーム上で SASL Kerberos 認証を使用する場合は、DNS があらかじめ設定されている必要があります。
- Linux システム上に設定されているキャッシュの合計が、600M バイトを超えることはできません。
- Windows システムが IPv6 をサポートしているかどうかについて、詳細なテストは行なっていません。
- Windows システム上で Directory Server をアンインストールする場合は、Directory Server が使用している基本システムライブラリの一部 (nsldap32v50.dll など) が、インストール済みの他の製品によって使用されていることがあります。他の製品によって使用されている場合は、これらのライブラリをアンインストールしないようにすることもできます。

Directory Server のマニュアルの記述の誤りの訂正および追加事項

『Reference Manual』

第2章「Command-Line Scripts」に記載されている `ldif2db`、`db2ldif`、および `db2ldif.pl` コマンド行スクリプトの説明は正しくありません。これらのスクリプトに対して、記載されているオプション以外に、次のオプションを追加してください。

表 2 コマンド行スクリプト `ldif2db`、`db2ldif`、および `db2ldif.pl` の追加オプション

オプション	意味
<code>-Y</code>	鍵データベースのパスワードを指定する (属性を暗号化するとき使用)
<code>-y</code>	鍵データベースのパスワードを保管するファイルを指定する (属性を暗号化するとき使用)

『Plug-In API Programming Guide』

第5章「Extending Client Request Handling」では、Pre-Operation and Post-Operation Plug-Ins の使用方法を説明しています。この節に対して、次の注を追加してください。

注 SASL 認証メカニズムでは、バインド前処理プラグインまたは後処理プラグインが同一認証要求で複数呼び出されることがあります。これは、DIGEST-MD5 の場合と同様に、SASL 認証メカニズムを実装するために複数の LDAP BIND 操作が使用されることがあるためです。

『管理ガイド』

1. 第3章「ディレクトリツリーの作成」にある、持続検索制御 (OID 2.16.840.1.113730.3.4.3) が連鎖できるという記述は正しくありません。現在の Directory Server では、実装されていません。

持続検索制御のほかに、次の制御についても『管理者ガイド』では誤って連鎖可能な制御として記述されています。

- 2.16.840.1.113730.3.4.4 (パスワード失効通知)
- 2.16.840.1.113730.3.4.5 (パスワード失効予告通知)
- 2.16.840.1.113730.3.4.15 (認証応答)

Directory Server が以上 3 つの制御をクライアントに返すため、連鎖設定による影響はありません。

- 2.16.840.1.113730.3.4.13 (レプリケーション更新情報)

この制御を、Directory Server クライアントによる連鎖と同時に使用しないでください。

2. 『管理者ガイド』のオンライン版は次のとおり更新されました。(英語版のみ。日本語版はアップデートされていません。)
 - 第 6 章、「アクセス制御の管理」の「アクセス権の定義」にある注で、コンソールからは「拒否」ACL を作成できない、と記述されていましたが、これは正しくありません。この注は英語版の新しいバージョンでは削除されています。
 - 第 8 章「レプリケーションの管理」の「レプリケーションの再試行アルゴリズム」の節が訂正されました(下記 4 を参照)。
3. CD に含まれるこのマニュアルの HTML 版では、第 3 章は無視してください。正しい第 3 章については、オンライン版(docs.sun.com)を参照するか、HTML 形式のマニュアル一式をダウンロードしてください。(英語版のみ。日本語版はアップデートされていません。)
4. 第 8 章「レプリケーションの管理」のレプリケーション再試行アルゴリズムの説明に、次の記述があります。

「再試行のパターンは、20、40、80、160 秒後です。その後、サプライヤは、160 秒ごとに再試行を繰り返します。」

この記述を次のように訂正してください。

「再試行のパターンは、20、40、80、160、300 秒後です。その後、サプライヤは、300 秒(5 分)ごとに再試行を繰り返します。」

『インストールおよびチューニングガイド』

付録 C 「Sun Cluster HA for Directory Server のインストール」には、次の注意事項が必要です。

注	Sun Cluster HA for Directory Server データサービスをインストールし設定する場合、Solaris パッケージはローカルの共有されていないディスクにインストールする必要があります。さらに、 <i>ServerRoot</i> は共有されているかまたはグローバルディスク上にある必要があります。
---	--

『Directory Server Resource Kit Tools Reference』

1. iPlanet LDAP Administrative Shell (ilash) が、このマニュアルには記載されていますが、現在のリリースの Directory Server Resource Kit (DSRK) には含まれていません。
2. 第 3 章「ldapsearch」では、ldapsearch コマンドの -o オプションについての記述は正しくありません。このオプションは検索結果の出力をフォーマットしないため、この章で説明されているとは異なりそれぞれの属性値内では改行は行われません。

SASL オプション `mech`、`realm`、`authid` および `authzid` の指定には、`-o` オプションが使用されます。

これらのオプションについての詳細は、『Sun ONE Directory Server 管理ガイド』の第 11 章「`ldapsearch` コマンドの例」を参照してください。

このエラーはバグ #4784801 として登録されています。

全般

このドキュメントセットの一部で、C および Java 向けの Directory SDK が iPlanet の製品であると記述されていますが、これらの Directory SDK は、Sun ONE の製品です。

注 ローカライズされたマニュアルは、利用可能になった時点で <http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja> に掲載されます。

互換性の問題

- Sun Solaris プラットフォームの LDAP ユーティリティのマニュアルページには、Sun ONE 版の LDAP ユーティリティである `ldapsearch`、`ldapmodify`、`ldapdelete`、および `ldapadd` に関する情報は記載されていません。これらのユーティリティに関する説明は、『Sun ONE Directory Server Resource Kit Tools Reference』を参照してください。

機能の拡張および解決された問題

Directory Server 5.2 では、以前のリリースで発生していた以下の既知の問題について、機能拡張および修正を行なっています。

レプリケーション

- カスケード型レプリケーションを行なったときに、削除操作がコンシューマに伝達されない (#4550044)
- Windows プラットフォーム上で最適化テストを実行すると、レプリケーション処理が中断される (#4616579)
- `nsTombstone` エントリがパージされない (#4617521)
- Directory Server で多数の廃棄エラーが発生する (#4633404)

- RUV データベースが破損すると、レプリケーションサプライヤが無効になり、再起動できなくなる (#4533706)
- レプリケーションが非同期になり、停止する (#4617085)
- MMR で大文字と小文字を区別する属性値を変更しようとする、失敗する (#4624693)
- 属性を削除した後に、レプリケーションサプライヤがクラッシュする (#4627443)
- レプリケーションを有効にすると、ディレクトリの障害またはハングが発生する (#4643122)
- 5.0 以降のサービスパックからコンシューマを移行すると、レプリケーションが壊れる (#4646392)
- レプリケーションに失敗し、サプライヤからコンシューマへの送信を再開できない (#4658810)
- オペレーショナル属性を更新すると、4.x と 5.1 間のレプリケーションが停止する (#4665571)
- 特定のレプリケーションアグリーメント属性が存在しない場合、Directory Server に障害が発生する (#4672889)
- システム時刻を過去に戻すと、レプリケーションが停止する (#4672960)
- レプリカオブジェクト内で、レプリケーション更新ベクトルを監視できない (#4691101)
- レプリケーションを無効に設定しないと、レプリカロールを変更できない (#4527621)
- bak2db を使用してデータベースを復元した後で、レプリケーションが再起動されない (#4689805)

コンソール

- HP および IBM AIX 上でコンソールを使用して Directory Server インスタンスを作成すると、タイムゾーンの異なるサーバーが作成される (#4529531)
- コンソールを使用して SNMP を起動できない (#4795483)
- コンソールを使用してハブを変更できない (#4527619)
- 複数のエントリを使用して検索を実行すると、コンソールに最初のエントリしか表示されない (#4726158)
- パスワードポリシーインタフェースまたはサービスインタフェースのクラスから読み込まれた参照ダイアログボックスに、既存のパスワードポリシーがすべて表示されない (#4722159)
- SSL を有効にしたコンソールからリモート Directory Server のデータにアクセスできない (#4663658)
- Windows プラットフォーム上でレプリカ ID が正しく表示されない (#4589224)
- コンソールで変更した RDN を保存しようとする、例外違反が発生する (#4668480)

- コンソールに時間が正しく表示されない (#4615165)
- 日本語の太字が、四角で表示される (#4645544)
- CA 証明書の削除に失敗する (#4658787)
- 「サフィックス設定をクローン」 オプションをコンソールで使用できない (#4700966)
- Linux 上のコンソールで、SSL がサポートされない (#4704635)
- Directory コンソールの証明書管理ウィザードで、新しい CA 証明書のインポートに失敗する (#4645545)

データベース

- bak2db を使用したときに、データベースを元の位置以外に復元できない (#4522793)
- 新しいデータベースを追加して初期化した直後にバックアップを実行すると、そのバックアップを復元できない (#4531022)
- 古いデータなのに、現在のデータベースに戻ることができる (#4638816)
- インポート中に ns-slaped 処理で障害が発生する (#4623119)
- アクセスできないファイルを使用してデータベースを初期化すると、サーバーに障害が発生する (#4523595)

セキュリティ

- アクセス制御でグループを評価できる入れ子のレベル数を nsslapd-groupevalnestlevel 属性に指定しても、アクセス制御プラグインがこの属性に指定した値を使用しない (#4529540)
- ACI アクセス権でセミコロンを使用すると、サーバーに障害が発生する (#4527617)
- パスワード属性の検出処理が変更されている (#4619976)
- Directory Server が SSL ピアホスト名を確認しない (#4615324)
- 旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインで、セキュリティ上の問題が発生する (#4618824)
- バインドに成功しても、失敗したバインドの回数がリセットされない (#4645887)
- SNMP PDU が不正な場合、マスターエージェントが失敗する - CERT Advisory CA-2002-03 (#4532320)
- パスワードポリシーを有効にして、passwordHistory 属性をユーザーパスワードが変更された回数より小さい値に設定すると、サーバーに障害が発生する (#4530739)

- `cn=config` または `cn=monitor` の状態で証明書を識別名にマッピングすると、バインドが失敗する (#4529535)
- パスワードポリシーのアカウントロックメカニズムを有効にして、読み取り専用レプリカ上でユーザーをロックアウトすると、そのアカウントのロックを解除できない (#4527608).

ロールおよびサービスクラス

- スキーマの `costemplatedn` 属性を文字列タイプから `dn` タイプに変更し、検索を実行すると空白の有無に関係なく `dn` のすべての値が返されるようになりました。この変更に伴い、次の検索フィルタ "`(objectclass=ldapsubentry)(costemplatedn=cn=template1,o=example.com)`" を実行すると、"`cn=template1,o=example.com`" の `costemplate` 値を含むエントリが返されます。以前のバージョンの Directory Server では、この検索フィルタを実行しても、空白があるためにこのエントリが返されませんでした。

LDAP アクセス

- 範囲を "1" に指定して、レプリカ上でディレクトリを検索すると、検索が失敗する (#4614741)
- 検索中にディレクトリに障害が発生する (SIGBUS) (#4639232)
- ディレクトリが、アンバインド要求に正しく応答しない (#4623308)
- `ldapmodify` が、`base64` で符号化された値を正しく解釈しない (#4665564)
- 作成中のエントリにバインドすると、Directory Server に障害が発生する (#4674387)
- LDAP 検索要求に含まれるフィルタが仮想属性を参照していると、サーバーはその LDAP 検索要求に応答しない (#4527614)

パフォーマンス

- 旧バージョン形式の更新履歴ログを有効にすると、パフォーマンスが低下する (#4639310)
- ループスレッドを実行すると、CPU の使用量が増加する (#4629441)
- CoS プラグインでメモリリークが発生する問題が解決された (#4630124)
- スキーマ検索でメモリリークが発生する問題が解決された (#4682961)

準拠

- デフォルトスキーマに RFC 2307 がない定義が含まれている (#4629102)
- 複数のエスケープ文字を含む DN が正しく正規化されない (#4535845)
- 空白文字を含む DN が RFC 2252 に準拠していない (#4687038)

インストール、アンインストール、および移行

- Windows 2000 では、サイレントインストール (`setup -s -f filename`) を使用してインストールしたディレクトリコンポーネントをアンインストールしてから再インストールすると、ディレクトリコンポーネントが元のインストールフォルダに格納される (#4526014)
- Red Hat Linux 7.2 では、アンインストールしてもアクティブな管理サーバープロセスが終了しない (#4744465)
- Directory Server 4.x および 5.0 の属性 `accesslog-maxlogdiskspace`、`accesslog-maxlogsize`、`auditlog-maxlogdiskspace`、`auditlog-maxlogsize`、`errorlog-maxlogdiskspace`、および `errorlog-maxlogsize` が、自動的に移行されない (#4529536)
- このベータリリースに含まれる `idsktune` ユーティリティのバージョンが更新されている (#4745287)
- ロケールをヨーロッパ言語または US UTF-8 に指定すると、インストールが失敗する (#4745711)

その他

- HP-UX 上で LDAP コマンド行ユーティリティを実行すると、文字セットが UTF-8 に正しく変換されない (#4792861)
- `nsbindtimeout` パラメータを使用してバインド試行がタイムアウトするまでの秒数を指定しても、応答を返さないホストではこのパラメータが正しく機能しない (#4639408)
- `dse.ldif` ファイル内で、`ds-hdsml-poolmaxsize` 属性の値が Base64 で符号化される (#4744565)
- 複数の属性一意性プラグインを使用すると、指定した属性に相互に一意性が適用される (#4649615)
- Directory Server をシャットダウンしたときに、ログファイルのタイムスタンプが正しく保存されない (#4656846)

- セキュリティ保護された管理サーバーを停止すると、`htmladmin.exe` に障害が発生する (#4529402)
- Directory Access Router 5.0 が、Directory Server と同じ管理サーバー `ServerRoot` を共有できない (Solaris プラットフォームでは修正済み) (#4692956)
- ディスクの容量が不足すると、Directory Server に障害が発生して再起動できなくなる (#4527611)
- Linux プラットフォーム上で、Directory Server が 2G バイトを超えるファイルをサポートしない (#4716745)

既知の問題

ここでは、Directory Server 5.2 のリリース時点での重要な既知の問題について説明します。これらの問題は、次の節に分けて説明します。

- [インストール、アンインストール、および移行](#)
- [セキュリティ](#)
- [スキーマ](#)
- [レプリケーション](#)
- [Directory Server コンソール](#)
- [コアサーバー](#)
- [その他](#)

インストール、アンインストール、および移行

インストールするときに、複数バイト文字が原因で問題が発生する (#4882927)

インストールするときに、複数バイト文字をサフィックス名以外で使用すると、Directory Server および管理サーバーの設定が失敗します。

回避策

サフィックス名以外のすべてのフィールドでは、1 バイト文字を使用します。

繁体字中国語 (zh_TW) 版をインストールするときに、サフィックス名に複数バイト文字を使用できない (#4882801)

繁体字中国語 (zh_TW) 版をインストールするときに、サフィックス名として複数バイト文字を入力すると、サフィックス名がコンソールに正しく表示されません。この問題は、SPARC プロセッサ上の Solaris パッケージから 32 ビットおよび 64 ビットをインストールした場合にだけ発生します。

回避策

1. インストールするときにサフィックスを作成するときは、1 バイト文字を使用します。インストールが完了したら、コンソールを使用して複数バイトのサフィックスを必要に応じて作成します。
2. JRE をバージョン 1.4.1 以降にアップグレードします。

HP-UX システム上でシステムのロケールを日本語に設定すると、管理サーバーがデフォルトで起動しない (#4869632)

回避策

US English 以外のロケールを使用してインストールする場合は、LANG 環境変数を C に設定します。詳細は、『Sun ONE Directory Server インストールおよびチューニングガイド』を参照してください。日本語版の Directory Server では、この問題は修正済みです。

インストール時に、エラーメッセージが通知される (#4820566)

インストールが成功すると、次のエラーがログに記録されます。

```
ERROR<5398> - Entry - conn=-1 op=-1 msgId=-1 - Duplicate value addition in attribute "aci"
```

このエラーは特に問題がないため、無視しても問題ありません。

インストールパスが 54 文字を超えている場合、管理サーバーが正しく起動しない (#4788213)

回避策

インストールの絶対パスを 54 文字以内にします。

Microsoft Terminal Services を使用して Directory Server をインストールできない (#4710132)

ルートサフィックスに空白文字を含めることができない (#4526501)

回避策

ルートサフィックスに空白文字が含まれている場合は、インストール時に生成されたサフィックスを次の手順に従って、空白文字を削除します。

1. Sun ONE サーバーコンソールの「サーバーとアプリケーション」タブで、左側のナビゲーション領域で最上位のディレクトリエントリを選択します。
2. 「編集」をクリックし、「ユーザー」ディレクトリのサブツリーフィールドでサフィックスを修正します。
3. 「了解」をクリックして変更を保存します。

migrateInstance5 のエラーメッセージ (#4529552)

エラーログを無効にして migrateInstance5 スクリプトを実行すると、サーバーがすでに稼働しているのに、移行処理がサーバーを再起動しようとしていることを通知するメッセージが表示されます。

エラーログが無効の場合は、このエラーメッセージを無視してもかまいません。

エラーログを有効に設定しているときにこのメッセージが表示される場合は、エラーログを参照して、詳細を確認してください。

セキュリティ

ACI 内の DNS キーワード (#4725671)

ACI 内で DNS キーワードを使用すると、すべての DNS 管理者が PTR レコードを修正してそのディレクトリにアクセスし、ACI が許可している権限を与えることができます。

回避策

ACI 内で IP キーワードを使用して、すべての IP アドレスをドメインに含めます。

引用符を含むエントリ DN (#4529541)

Directory Server では、引用符を含む ACI ターゲットエントリ DN が正しく解析されません。次の例では、構文エラーが発生します。

```
dn:o=mary¥"red¥"doe,o=example.com,o=isp
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///o=mary¥"red¥"doe,o=example.com,o=isp") (targetattr="*")
(version 3.0; acl "test"; allow (all) userdn ="ldap:///self";)
```

パスワード変更後のアカウントロックアウト (#4527623)

ユーザーパスワードを変更しても、アカウントはロックアウトされたままになります。ユーザーがパスワードを忘れたために、ディレクトリからロックアウトされた場合は、ロックアウト属性 (accountUnlockTime、passwordRetryCount、および retryCountResetTime) が解除されるまでログインできません。Directory Manager がそのユーザーのパスワードをリセットすると、ロックアウトは解除されます。

回避策

ロックアウト属性 accountUnlockTime、passwordRetryCount、および retryCountResetTime をリセットして、アカウントのロックを解除します。

スキーマ

nsslapd-ds4-compatible-schema 属性 (#4666007)

nsslapd-ds4-compatible-schema 属性を on に設定すると、slapd の起動に失敗することがあります。

この問題は、Directory Server 5.2 で提供されるデフォルトスキーマで修正されています。ただし、スキーマをカスタマイズしている場合、この問題は引き続き発生する可能性があります。Directory Server 4.x の表記法は、LDAPv3 に準拠していません。Directory Server の今後のリリースでは、この表記法はサポートされなくなる予定です。

回避策

スキーマをカスタマイズしている場合は、次の手順で解決してください。

- エラーログを確認して、エラーが発生しているスキーマ要素を特定します。
- この要素が定義されているファイルを編集します。
 - キーワード `must`、`may`、`obsolete`、`x-origin` を使用しないように、この要素の説明 (DESC) を変更します。
- ファイルを保存して、サーバーを再起動します。
 - たとえば、次のファイルを編集するとします。

```
ServerRoot/slapd-serverID/config/schema/20subscriber.ldif
```

```
inetUser 属性の 'Auxiliary class which must be present in an entry for delivery of subscriber services' という説明を 'Auxiliary class which has to be present in an entry for delivery of subscriber services' に変更します。
```

レプリケーション

旧バージョンのレプリケーションで参照整合性プラグインを使用する際のドキュメントが必要 (#4956596) 参照整合性を有効にした状態で、4.x マスターから 5.x コンシューマにレプリケートする場合、4.x マスターの参照整合性プラグインを設定し直し、参照整合性の変更を 4.x の変更履歴に書き込む必要があります。これにより、参照整合性の変更がレプリケート可能になります。プラグインを設定し直さない場合、参照整合性は正しく動作しません。

この環境で、参照整合性プラグインを設定し直すには、次の手順を実行します。

1. 4.x サーバーを停止します。
2. `ServerRoot/slapd-ServerID/config/` にある `slapd.ldbm.conf` ファイルを開きます。
3. 次の記述で始まる行を探します。

```
plugin postoperation on "referential integrity postoperation"
```

4. 属性のリストの直前に表示される引数 **0** を **1** に変更することによって、この行を修正します。
次に例を示します。

```
plugin postoperation on "referential integrity postoperation"  
"ServerRoot/lib/referint-plugin.dll" referint_postop_init 0  
"ServerRoot/slapd-serverID/logs/referint" 0 "member" "uniquemember" "owner"  
"seeAlso"
```

上記の記述を次のように変更します。

```
plugin postoperation on "referential integrity postoperation"  
"ServerRoot/lib/referint-plugin.dll" referint_postop_init 0  
"ServerRoot/slapd-serverID/logs/referint" 1 "member" "uniquemember" "owner"  
"seeAlso"
```

5. `slapd.ldbm.conf` ファイルを保存します。
6. サーバーを再起動します。
7. 5.x コンシューマを 4.x サプライヤから再初期化します。

変更履歴ログがデフォルトでページされない (#4881004)

レプリケーションを設定するときには、変更履歴ログはデフォルトでページされないことに注意してください。つまり、`changelog.db3` ファイルは際限なくサイズが増加します。

回避策

更新履歴ログの最長保存期間の値を設定するか、更新履歴ログのレコードの最大数を設定します。この設定をするには、Directory Server コンソールから「設定」>「データ」>「レプリケーション」を選択するか、コマンド行を使用して `cn=changelog5,cn=config` の下にある属性 `nsslapd-changelogmaxage` または `nsslapd-changelomaxentries` を修正します。

nsldapd-changelogmaxage 属性は、cn=replica,cn=suffixName,cn=mapping tree,cn=config の下にある nsDS5ReplicaPurgeDelay 属性と同じ値に設定する必要があります。これらの属性についての詳細は、『Sun ONE Directory Server Reference Manual』の第4章「Core Server Configuration Attributes」を参照してください。

insync コマンド行ツールで部分レプリケーションの概念がサポートされない (#4856286)

このため、部分レプリケーションが設定されている場合には、報告された遅延が正しくないことがあります。

回避策

部分レプリケーションが設定されている場合は、ldapsearch ユーティリティを使用して ds5ReplicaPendingChangesCount 属性の値を決定します。この読み取り専用の属性は、指定されたコンシューマに送信されていない変更の数を返します。この属性は、ldapsearch 操作で明示的に要求する必要があります。ただし、この属性を使用して ldapsearch コマンドを実行すると、サーバーのパフォーマンスが低下します。

SSL ベースのマルチマスターレプリケーション (#4727672)

マルチマスターレプリケーションでは、単純な認証を使用して SSL を介したレプリケーションを有効にすると、証明書に基づくクライアント認証を使用して SSL ベースの同一サーバー間のレプリケーションを有効にできなくなります。

回避策

証明書に基づくクライアント認証を使用して SSL ベースのレプリケーションを有効にするには、少なくとも1つのサーバーを再起動してください。

完全更新の中断 (#4741320)

進行中の完全更新を中断すると、別の完全更新を起動することも、そのサフィックス上でレプリケーションを再度有効にすることもできなくなります。

回避策

進行中の完全更新は、中断しないようにしてください。

レプリケーション監視ツールおよびリテラル IPv6 アドレス (#4702476)

レプリケーション監視ツール (entrycmp, insync および repldisc) は、リテラル IPv6 アドレスを含む LDAP URL をサポートしていません。

ローカルマシンで変更したスキーマが、コンシューマデータベースが作成されたときに上書きされることがある (#4537230)

注

レプリケーション監視ツールは、cn=config を読み込んで、レプリケーションの状態を取得します。SSL を介してレプリケーションを設定する場合は、特にこの点を考慮する必要があります。

注

Directory Server 5.2 では、スキーマファイル 11rfc2307.ldif が RFC 2307 に合わせて変更されています。5.2 サーバーと 5.1 サーバー間でレプリケーションが有効になっている場合は、5.1 サーバー上で RFC 2307 スキーマを訂正する必要があります。訂正しない場合、レプリケーションは正しく動作しません。5.2 サーバーと 5.1 サーバー間でレプリケーションを正しく行うには、次の手順を実行します。

- zip をインストールする場合は、5.1 スキーマディレクトリから 10rfc2307.ldif ファイルを削除してから、5.2 の 11rfc2307.ldif ファイルを 5.1 のスキーマディレクトリにコピーします (5.1 Directory Server の Solaris パッケージにはこの変更が反映されています)。
- 次のファイルを 5.2 のスキーマディレクトリから 5.1 のスキーマディレクトリにコピーして、5.1 のファイルを上書きします。
11rfc2307.ldif、50ns-msg.ldif、30ns-common.ldif、50ns-directory.ldif、50ns-mail.ldif、50ns-mlm.ldif、50ns-admin.ldif、50ns-certificate.ldif、50ns-netshare.ldif、50ns-legacy.ldif、20subscriber.ldif
- 5.1 サーバーを再起動します。
- 5.2 サーバーで、cn=config の下にある nsslapd-schema-repl-useronly 属性を on に設定します。
- 両方のサーバー上でレプリケーションを設定します。
- レプリカを初期化します。

最初に、他のスキーマ要素が同期されるときに、特定のスキーマ属性がサーバー間でレプリケートされます。この操作により問題が発生することはありません。スキーマの変更方法の詳細は、「[インストール上の注意](#)」を参照してください。

Directory Server コンソール

新規メンバーを含む新規グループの作成 (#4868083)

コンソールを使用して新規メンバーを含む新規グループを作成すると、LDAP 例外エラーが発生します。コンソールを使用して新規グループを作成し、メンバーを追加してからそのグループを保存すると、次のエラーが表示されます。

```
保存エラー: Directory Server に保存できません : netscape.ldap.LDAPException: error results (2); protocol violation: attribute uniquemember has no values; プロトコルエラー
```

回避策

グループを追加して保存 (「新規グループの作成」ウィンドウで「了解」をクリック) してから、メンバーを追加します。

コロンを含むパスワードがコンソールでサポートされない (#4535932)

コンソールでは、コロン (:) を含むパスワードはサポートされません。

回避策

パスワードには、コロンを使用しないでください。

コンソールと外部セキュリティデバイス (#4795512)

コンソールでは、Sun Crypto Accelerator 1000 Board などの外部セキュリティデバイスの管理はサポートされません。

回避策

外部セキュリティデバイスは、コマンド行を使用して管理する必要があります。

リモートコンソールをインポートしたときに、末尾の空白が削除される (#4529532)

末尾の空白は、ローカルコンソールで `ldif2db` インポート操作をした場合に保持されます。

startconsole コマンドを `-l` オプションを指定して実行した場合の問題 (#4843693)

Windows システムでは、`-l` オプションを指定して `startconsole` コマンドを実行しても、ロケールが正しく設定されません。ロケールが設定されていない場合、各ロケールの文字はコンソールに表示されません。

回避策

`-l` オプションを指定して `startconsole` コマンドを実行するときには、次の手順でロケールを設定します。

1. 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロールパネル」を選択します。
2. 「地域のオプション」を選択します。
3. 「地域のオプション」ウィンドウの「全般」タブで、「ロケール (国または地域)」ドロップダウンリストから適切なロケールを選択します。
4. 「OK」をクリックします。

コアサーバー

エクスポート、バックアップ、復元、またはインデックス作成時にサーバーを停止すると、サーバーに障害が発生する (#4678334)

その他

SNMP サブエージェントの統計 (#4529542)

UNIX プラットフォームでは、最後に起動した SNMP サブエージェントの統計だけが生成されます。つまり、SNMP を使用している Directory Server インスタンスを、一度に 1 つだけ監視できます。

トランザクションログと db2bak コマンド行ユーティリティ (#4815733)

db2bak コマンド行ユーティリティを取り消しても、トランザクションログは削除されなくなりしました。db2bak の実行中は、データベーストランザクションログの削除が一時的に無効になります。このコマンドが完了しなかった場合でも、トランザクションログの削除は再度有効にはなりません。

回避策

バックアップの進行中は、CTRL-C を押すなどして db2bak コマンドを中断しないでください。この問題を回避するために、db2bak.pl (Solaris パッケージの場合は `directoryserver db2bak-task`) を使用することを強くお勧めします。

パススルー認証 (PTA) プラグインで、同じサフィックスを使用して複数の Directory Server の認証を受け入れるように設定することができない (#4845622)

データベースディレクトリにログファイルがすでに存在する場合、トランザクションログファイルの最大サイズを変更しても変更が有効にならない (#4523783)

回避策

サーバーを停止して、`dse.ldif` の `nsslapd-db-logfile-size` 属性を手動で変更し、データベースディレクトリからすべての `log.*` ファイルを削除してから、サーバーを再起動します。

Linux システム上の `ldapsearch` (#4755958)

Linux システムでは、`ldapsearch -D ... -w ... -h -p 389` のように、ホスト名を指定しないで `ldapsearch` 操作を実行すると、エラー 91 (`ldap_simple_bind: Can't connect to the LDAP server - No route to host`) が返されます。Linux 以外のプラットフォームでは、エラー 89 (`LDAP_PARAM_ERROR`) が返されます。これは、Linux システムでは "-p" などのホストを解決できるため、接続関数が実行を試みて失敗するためです。

製品ドキュメントの入手方法

オンラインドキュメントのファイルは、製品 CD に含まれています。ブラウザを使用し入手することもできます。また、HTML 形式のドキュメント一式をダウンロードすることもできます。

このファイルのダウンロードが完了したら、次の場所に展開してください。

```
ServerRoot/manual/ja/slaped
```

次のファイルからドキュメントを参照できます。

```
ServerRoot/manual/ja/slaped/index.html
```

また、「ヘルプ」メニューの「ドキュメントホーム」を選択して、Directory Server コンソールから参照することもできます。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun ONE Directory Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support Services
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、Knowledge Base、Online Support Center、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクがあります。

- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質を向上するために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。コメントは、次の電子メールアドレスへお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの件名には、マニュアルの Part No. (816-6880-10) をご記入ください。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun ONE 情報があります。

- Sun ONE マニュアル
<http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja>
- Sun ONE ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun ONE ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun ONE サポートおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://www.sun.com/supporttraining>
- Sun ONE コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun ONE 開発者向け情報
<http://sunonedev.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ONE ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun ソフトウェア一覧
<http://www.sun.com/software>
- Sun ONE Directory Server の認証
http://training.sun.com/US/certification/middleware/dir_server.html

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Solaris、Java、および Java Coffee Cup ロゴは、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。Directory Server は、製品に付属のライセンス契約に記載されている条件に従って使用してください。